

繊維産業の活性化に向けた取り組み

「三河木綿」の復興

蒲郡の繊維産業を盛り上げるためには、他の産地とは違う、「三河繊維産地」ならではの産地ブランドイメージの創出が必要であると考えました。

そこで目を付けたのが、「三河木綿・三河縞」です。「三河木綿」を「三河繊維産地」のシンボ

ル」として、次の3つの場所を中心に体験や復元など、さまざま取り組みを行い「三河木綿」「三河繊維産地」のPRやイメージアップに取り組んでいます。

これらの活動が認められ、「三河木綿」が平成19年に地域ブランドとして商標登録されました。

江戸時代までさかのぼり、昔ながらの製造方法で「三河木綿・三河縞」の復元に取り組む
手織場

☎68◆5771

地域ブランド認定品



三河木綿
MIKAWA MOMEN

簡単な手織体験や、自由で新しい木綿織物を楽しむ教室を行う
竹島クラフトセンター
☎090◆5100◆8109

三河の繊維業者の、新製品から伝統のものまで、三河木綿の商品を扱う
アンテナショップ 夢織人
☎68◆2105

三河から未来へ コットンから希望を



全国コットンサミットin蒲郡
実行委員長
鈴木 敏泰さん(70歳)

鈴木さんがテキスタイルデザイナーとして蒲郡に来たのは昭和39年。以来50年近く、蒲郡の繊維産業に深く関わり、今年、コットンサミットの実行委員長を務めます。

当時は盛んだった繊維産業は、時代が動き、平成10年頃には大変な落ち込みを見せました。蒲郡の繊維産業の窮地を立て直すためにたどり着いたのが「棉」と「三河木綿」。

「根っこのない産業は長続きしない」と考える鈴木さん。「三河に伝わった『棉』。蒲郡では棉を作り、糸にして、商品にするということをやっていた。これこそ原点。蒲郡ならではの」

それからは「三河木綿」の復興のみにとどまらず、新しい技術を取り入れ、発展させ、事業化を目指す取り組みが始まります。「いかにそこにあるものに魅力をつけるか、未来に希望を作り上げるか」という、夢織人、手織場、クラフトセンターからミカワ・コットン・プロジェクトまで続く鈴木さんの想い。

サミットは、この取り組みを市民に、全国に発信するための「絶好のチャンス」であり、発信することで「今までずっとやってきたことの夢が達成できる」と鈴木さんは語ってくれました。「三河木綿」が、蒲郡の繊維産業を未来へと繋ぎます。